

青海波唐破風瓦再制作概要



せいはいはからはふがわら
青海波唐破風瓦とは「竜」と「雲」と「波」をデザインした大分県豊後地方特有の装飾瓦です。この装飾瓦については確かな記録はありませんが豊後地方の約40ヶ所にその存在が確認でき、主に神社の向拝(社殿の正面に張り出して庇を設けた部分。参詣人が礼拝する所。)や、寺院の玄関に使用されています。

当博物館の青海波唐破風瓦は、平成6年、当時、ただ一人の制作技法継承者で日本鬼師の会会員であった大分県の生野盛氏(故人)が制作したものでしたが、経年劣化による破損が著しいため、「日本鬼師の会」による再制作を行い、このたび「竜」と「雲」と「波」がダイナミックにうねる秀麗な姿を再現することができました。

- 1 制作者 日本鬼師の会
(事務局:福知山市大江町河守 285 番地 福知山市役所大江支所内)
- 2 制作期間 平成 24 年 9 月 4 日から平成 24 年 12 月 6 日
- 3 制作場所 大江山鬼瓦工房
- 4 制作延人数 50 人
- 5 設置場所 日本の鬼の交流博物館
- 6 青海波唐破風瓦の種類と数量
(1)大波 30 個 (2)小波 31 個 (3)じゃばら 41 個 (4)ウロコ丸 30 個
(5)巴 2 個 (6)唐破風竜体鬼瓦 1 個 合計 135 個
- 7 粘土使用量 約 870 kg 産地は三州(愛知県)産

8 制作工程

(1) 設計

- ・既設青海波唐破風瓦の原寸を測量し、焼成による収縮量を見込んだスチロール製型枠を作製。
- ・前回制作した青海波唐破風の絵図をコピーし収縮量を見込んだ倍率に拡大収縮率は15%。

(2) 各瓦の制作

①大波小波制作(ハンドメイド)

- ・型枠を寝かせ、その中に粘土の板を設置する。その後、図面を粘土の上に置き、その上をなぞって全体の絵を描く。
 - ・次に、描いた絵の上に粘土を盛り、堅さに応じて逐次彫刻する。
 - ・全体の彫刻が終了した後、図柄に応じて切断する。
- *作業を中断するときはビニールシート等で養生し乾燥を防ぐ。

②じゃばら・ウロコ丸・巴制作(型押し)

- ・前回設置したものをうい収縮率15%を考慮した石膏型を作成。
- ・石膏型で型押しを行い制作する。

③唐破風竜体鬼瓦の制作(ハンドメイド)

- ・竜(頭)1個、足2個を前回設置の竜体鬼を参考に制作。
- ・旧大江町のマークについても復元。

(3) 瓦の乾燥

- ・制作した瓦は鬼瓦工房にて常温で約一月間乾燥させる。
- ・急激な乾燥を防ぐため、乾燥工程の前半(約2週間)はビニールシートや布を被覆し乾燥。その後、被覆したシート類を撤去し乾燥。
- ・乾燥工程後半に室温が低温になった場合は、工房内の暖房を使用し室温を調整しつつ乾燥させる。

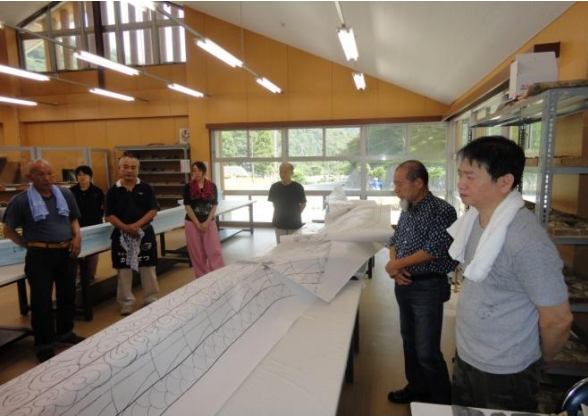
(4) 瓦の焼成

- ・鬼瓦工房内のガス窯にて焼成。
- ・焼成回数 3回
- ・焼成時間 30時間(最高焼成温度1,080℃)
 - *最高焼成温度到達後3時間は温度設定を1,080℃に保ちながら焼成を行う。
 - *バーナー消火後、窯内温度が930℃になった時点で燻し工程を30分行う。

(5) 瓦の設置

- ・設置順序は下記のとおり
大波小波 → じゃばら → うろこ丸 → 唐破風竜体鬼瓦 → 完成!

青海波唐破風瓦制作風景



1 原寸図を元に打ち合わせ



2 雲と波の盛り上げ



3 仕上げ磨き状況



4 大波角仕上げ



5 龍の顔を盛り上げていく



6 模様を盛り上げていく



7 龍の頭仕上げ



8 龍 仕上がり状況



9 蛇腹 型詰状況



10 ウロコ丸 型詰状況



11 乾燥状況



12 蛇腹 乾燥状況



13 一回目焼成積み込み状況



14 二回目焼成積み込み状況



15 焼成完了



16 焼成完了